



はぐくみ

《学校教育目標》 ゆたかな心とたくましい体をもつ子どもの育成

立花北小 校長室だより

令和5年12月14日発行
No.7 「何でもしっかり食べる子に」
発行者：校長 佐野 正信

発表します！ 《立北のすごいところランキング》

立花北小学校へ着任して間もない頃、学校のことをいろいろ教えてください…と先生たちにアンケートをお願いしました。質問は、『立花北小の自慢』についてです。その結果を発表します。さてさて、どんな意見があるでしょう。

- 《第1位》「立北の子は、明るく素直で子どもらしい。」12票
- 《第2位》「立北の子は、元気でたくましい。」11票
「立北の先生は、仲がよくて協力的。頑張る先生ばかり。」11票
- 《第3位》「立北の子は、すすんであいさつができる。」5票
「立北の6年生は下級生にやさしい。リーダーシップがある。」5票
「立北は、体育を頑張っている。モンキーつり輪やジャングルジムなど立北にしかない遊具も充実。」5票
- 《第4位》「立北は、給食がおいしい。」4票
「立北の子は、前向きに頑張る子、よく働く子が多い。」4票
- 《番外編》「歴史のつまった校舎」「緑や花がきれい」「立北小に関わる全ての人の人間力が素晴らしい」各1票

アンケートから7か月以上が経ち、先生たちはよく見ているなど感心しています。どれもうなずけることばかりです。

給食週間 ～感謝して、何でもしっかり食べる子に～

今週は、『給食週間』です。毎日、食べている給食も、献立を考える人…育てる人…運ぶ人…作る人…と、たくさんの方々の努力があって初めて食べることができます。リモートの給食集会では、このことにあらためて感謝する機会を持ちました。立北にずっといる人は気づかないかもしれませんが、上のアンケート結果にもあるように、「立北の給食は、とてもとても美味しいですね。」と、転勤してきた先生方は口々に話しています。

そんな給食も、夏はとんでもなく暑く、冬は凍えるくらいに寒い給食室で、毎日、調理師さんが一生懸命に作ってくれています。今回、委員会の子どもたちから、調理士さんへ感謝のお手紙を贈りました。



また、毎日の給食の時間には、委員会の子どもたちが、今日のメニューについて給食放送で話してくれます。担当の子どもが、栄養士の先生と一緒に伝える内容を考えて話していますが、実は、その放送が学校の外にも聞こえていて、先日、北側の公園で地域のお年寄りに「ええこと言うてますな！」とほめていただきました。とてもうれしかったです。

学校給食では、旬の食材を使った季節のメニューが工夫されています。「すいとん」「けんちん汁」「かす汁」「ぶた汁」「三平汁」…等々、これらは、芋、ゴボウ、土しょうが、こんにゃく、大根、ニンジン等の根菜たちをたっぷり使った日本の伝統食です。これらを昔から沢山食してきた日本人は、体の大きな欧米人より約1.5倍も長い腸を持っています。繊維質の多い根菜を消化吸収するため進化してきたと言われていています。また、消化のために胃と腸が一生懸命に働くことで発生する熱が、寒い季節の体を内から温める作用にもつながっています。しかしながら、戦後、日本人の食が欧米化したことによって、長い腸にお肉や油が詰まり、様々な成人病が引き起こされるようになりました。そのため、近年、お腹の中をきれいに掃除してくれる繊維質の多い日本食が世界でも注目されています。子どものうちから好きなものだけを食べるのではなく、栄養バランスのとれた伝統食のよさを理解し、好き嫌いせずに何でもしっかり食べられる子どもに育てたいものです。尼崎市の栄養士さんたちが様々なことを考えて一生懸命に作った献立表を、今一度ぜひご覧ください。

最近、給食の時間に教室をまわっていて、少し気になることもあります。それは「〇〇きれい!」「食べたくない!」と平気で言う子がいることです。「食育は人づくりの基本である。口から入れる食べ物は、自分の体を作ってくれる。自分の体を整えてくれる。自分のために働いてくれる食べ物を「きれいだ」「まずい」と言って食べない子が、どうしてお友達と仲良くできようか。」その昔、尊敬する先輩の教員に教えていただいた言葉です。いろいろな食べ物とも仲よしになれるよう、どうかお家でも「好き嫌いせんとちゃんと食べようね!」とお話いただくと有り難いです。<校長：佐野 正信>

